

No.2018-36

2025年万博 大阪開催決定

経済効果は2兆円、期待高まる

- ▶ 博覧会国際事務局（B I E）総会がパリで開催され、55年ぶりに大阪での開催が決定。
- ▶ 人工知能（A I）や拡張現実（A R）などの最先端技術を駆使し、来場者の誘致を図る。
- ▶ 約2兆円の経済効果が見込まれるも、会場建設費やインフラ整備に要する財源確保が今後の課題となる。

11月23日、2025年の国際博覧会（万博）国を決定する、博覧会国際事務局（B I E）総会がフランス・パリで開催され、加盟国170カ国のうち分担金を支払った156カ国による無記名投票により、大阪の開催が決定しました。

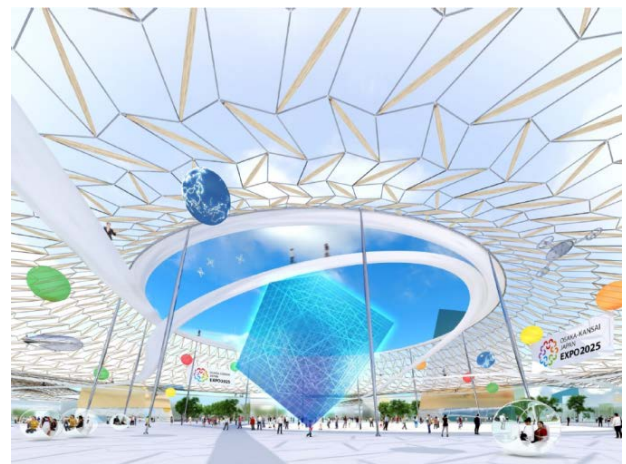
大阪での開催は1970年以来、55年ぶりで2回目の開催となります。2020年の東京五輪・パラリンピックに続く大型イベントとなることから、開催地である大阪のみならず、日本を訪れる観光客の増加が見込まれるため、経済の活性化が期待されそうです。

しかし近年では、インターネットの普及に伴うグローバル化の進展やテーマパークとの競合などにより、万博の入場者数は低迷していることから、誘致には体験や来場者同士の交流を重視していくなどの工夫が必要であるとみられています。

大阪万博は、大阪市湾岸部の人工島、夢洲（ゆめしま）を会場とし、開催に向けて地下鉄延伸や湾岸エリアの再開発などのインフラ整備が加速しそうです。またテーマを『いのち輝く未来社会のデザイン』とし、健康や福祉、貧困など人類共通の課題解決に向けて最新技術を取り入れたアイデアを発信していきます。人工知能（A I）や拡張現実（A R）、バイオマスエネルギーなどの先端技術を駆使したイベントや展示により来場者の交流を図ることが検討されており（図表1）、およそ2,800万人の入場者*を見込むとともに（図表2）、約2兆円の経済効果*が見込まれていることから、東京五輪後の景気浮揚策としての期待が高まっています。

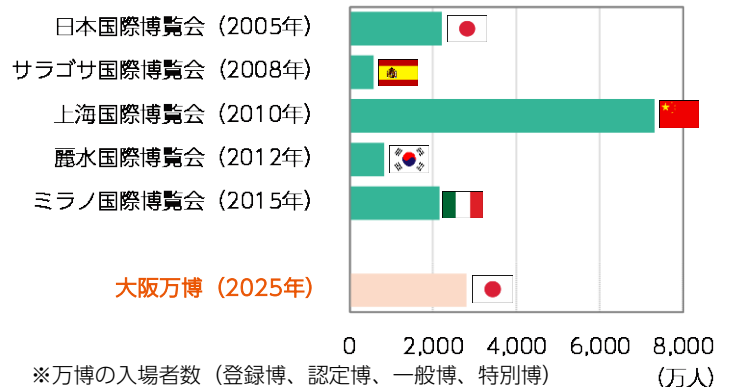
*政府による試算

図表1：最新技術を利用した展示により交流を図る



※大広場の完成イメージ図

図表2：およそ2,800万人の来場者を見込む



今後課題となるのは、およそ1,250億円と試算されている会場建設費と、開催に伴うインフラ整備に要する財源の確保です。国と地元自治体（大阪府・市）、民間とで3分の1ずつ負担することで合意がなされています。民間には約400億円を求められており、現段階では、関西の企業を中心に事業規模や業績に応じ負担を要請することにより資金を調達する方式を採用することが有望になるものとみられているようです。

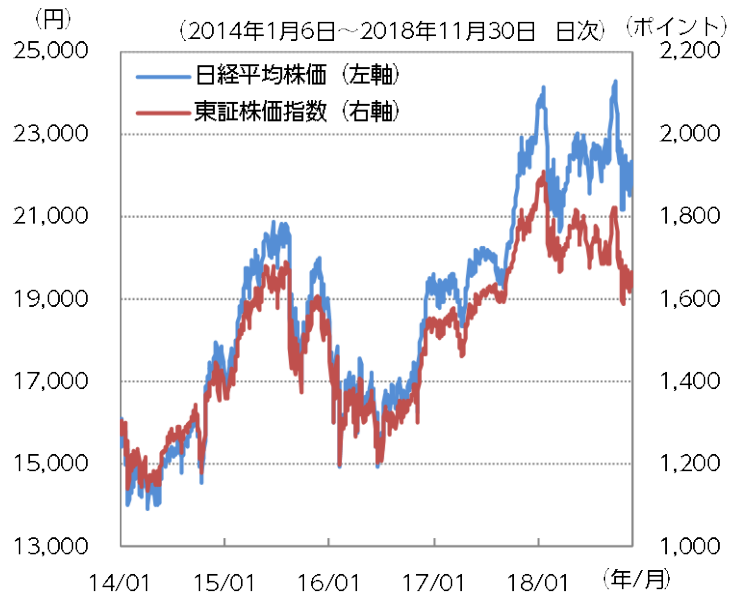
出所) 図表1は経済産業省の資料、図表2はB I Eのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(2018年11月26日～11月30日)

(1) 日本の株式・債券市場

株式市場の動き

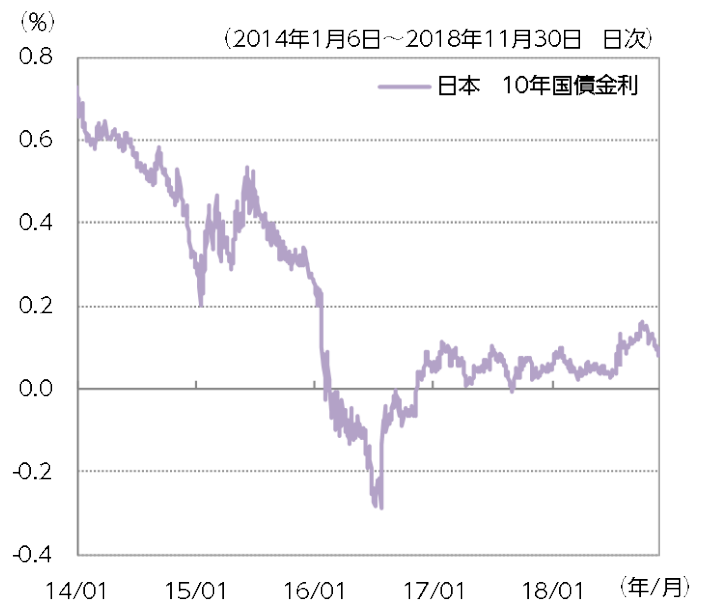
- 先週の日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で上昇となりました。米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ終了が想定よりも早まるとの思惑や、週末に開催される米中首脳会談において、通商交渉に進展が見られるとの期待感から、前週末から引き続き6営業日続伸となりました。（週末引け値：22,351.06円）
- 週間では、日経平均株価は3.25%の上昇、東証株価指数は2.36%の上昇でした。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

債券市場の動き

- 先週の日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下となりました。米利上げが早期に終了するとの観測が広がり、米長期金利が低下したことを受け日本国債は買いが優勢となりました（利回りは低下）。（週末引け値：0.092%）。
- 週間では、0.008%の低下となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(2) 米国の株式市場

市場の動き

- 先週の米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で上昇となりました。パウエルFRB議長の講演会における『（足元の政策金利は）中立より若干低い』等の発言がハト派*的と捉えられ、利上げが想定よりも早く終了するとの観測が広がったことから、株価は大きく上昇する展開となりました。（週末引け値：25,538.46ドル）

※金融緩和推進派

- 週間ではNYダウは5.16%の上昇となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(3) 外国為替市場

市場の動き

- 先週の米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。週初は日経平均株価の上昇に歩調を合わせた円売り米ドル買いが進行しました。パウエルFRB議長のハト派的な発言を受け週中は円買いが進行したものの、週末は米中首脳会談において、通商交渉への進展期待から円売り米ドル買いが優勢となりました。（週末引け値：113円35銭～45銭）

- 週間では米ドル/円は0.54%の円安、ユーロ/円は0.30%の円安となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>